

利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所
発行人 真庭 拓郎
〒378-0031 沼田市薄根町 4412 番地
TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180
E-mail : tonekyou@pref.gunma.jp
URL : http://www.pref.gunma.jp

広報紙「利根・沼田の教育」発刊に寄せて

利根教育事務所長 真庭 拓郎



上越線沼田駅南側に建設された利根沼田県民局庁舎内4階に移転しておおよそ半年が経過しました。北に「谷川岳」西に「利根川・子持山」を眺め、風光明媚な環境の中、以前の2.5倍の明るく広々とした部屋で快適に業務をさせていただいております。

ここに至るまでの関係者のご労苦に衷心より感謝申し上げます。

また、過日は昨年5月に実施された教育課程実施状況調査結果の概要が公表されました。管内においては、大部分の小中学校が県の通過率を上回っており大変良好な結果でありました。これも、現場の先生方の日頃の頑張りの成果であり関係各位に重ね重ね感謝申し上げる次第です。

6月3日、管内の教育委員会総会が開催され、「谷川岳に願いをこめて」という演題で谷川岳肩の小屋管理人馬場保男氏による記念講演が行われました。群馬県警沼田署谷川岳警備隊員の一員として、35年間谷川岳一筋の生活を豊富な知識と経験をもとに感動的に話してくれました。その中で、なぜ全身全霊を谷川岳に傾注できるのか。その理由は「山(谷川岳)が好きだから」という説明でした。なぜ、一途に教育の道を歩めるのか。「子供たちが好きだから」《あたりまえのごとく》《心底から》《さりげなく》そんな言葉が言えるような教師人生を歩めたら教師も子供たちも最高に幸せだろうと強く感じました。

さて、指導行政がどのような方針のもと具体的にどのような取り組みをしているのか等一層のご理解を賜りたくここに、広報紙「利根・沼田の教育」を発刊しました。皆様のご理解・ご支援と忌憚のないご意見等お寄せいただければ幸いに存じます。何卒、よろしくお願いいたします。

学校教育グループ

学校訪問の状況から～少人数指導・TT指導の充実に向けて～

学力向上フロンティアスクールなどの研究指定校等の成果が各学校に普及し、効果的な少人数指導やTT指導の在り方の理解や指導体制の整備及び授業改善が進んでいます。

《実践の状況》

少人数による指導

- 算数・数学の習熟度別コース等での補充的・発展的な学習指導。
- ・児童生徒一人一人の学習状況を適切に見取り、児童生徒一人一人が自分のニーズに応じた学習をしている。
- 国語の等質のクラス編成による指導や理科の第1・2分野別クラス編成による指導。
- ・児童生徒一人一人が課題にじっくり取り組めるなど、個の追究が保証されている。

《実践の状況》

TTでの指導

- 理科における追究方法別のグループ実験を取り入れた指導。
- ・指導者同士の教材研究が深まり、教師が仕組んだ学習環境に児童生徒が引き込まれて、課題解決に没頭している。
- 学級活動等において養護教諭や学校栄養職員を活用した指導。
- ・専門的な資料・教具の提示や指導により、意欲的な追究をしている。

【今後の課題】

《教材等の準備》

○一人一人の学習状況に対応した指導ができるように、学習活動を予想して多様な教材等の準備をする。

《打合せの時間の確保》

○担当者同士が、定期的に教材や児童生徒の学習状況について協議や情報交換等を行う。

＜打合せでの留意事項＞

- ・ 学習状況や評価項目に関する情報交換等を行う。
- ・ 教材に合わせて、「誰が」「いつ」「どの子供・班に」「どのような」指導をするのか役割分担等を明確にする。
- ・ ねらいの実現状況の見取り方や見取りに応じた支援の内容・方法について情報交換等を行う。

＜打合せにより期待される効果＞

- ・ 児童生徒のよさを多面的にとらえられ、学習指導のみならず、日常のかかわりにも生かすことができる。
- ・ 教材研究が深まり、多様な学習活動が構想できるとともに、互いに自信をもって授業ができる。

生涯学習グループ

子供たちの放課後の居場所づくり ～「地域子ども教室推進事業」から～



放課後、ランドセルを背負った子供たちが、校舎1階の『子ども教室』(空き教室利用)に集まってきた。

「さあ始めるよ。」という地域の指導員の方のかけ声で、子供たちは、今日は何が始まるのか興味深そうに教室の床に座った。この日の読み聞かせは、指導員の“かっちゃん”(子供たちはそう呼ぶ)が当番である。指導員が輪番制で選書し、読み聞かせを行っているという。絵本を一冊読み終えると、この日の活動である「さつまいも植え」の仕方を説明した。そして、子供たちは、出欠の確認も兼ねる手作りの名札を胸に付け、準備してきたペットボトルに水を入れ、さつまいもの苗を植える近くの畑へと向かった。子供たちの列の前後に指導員が付いて歩き、横断旗をもった安全管理担当の指導員は、前もって横断歩道で待っていた。

畑に着き、“かっちゃん”の家で育てた苗を子供たちに配ると、思い思いに土を掘って苗を置き、ていねいに土をかぶせた。「秋になったら、どんなふうにして食べる？」と指導員。「僕、焼き芋。」「私、スイートポテト。」と子供たち。

毎週金曜日の放課後に、新巻小学校内の『子ども教室』で行われている委託事業『地域子ども教室推進事業』への参加登録児童数は、約80名にもなる。新治村では今年度、全小学校の協力を得て、本事業が進められている。管内でも、13の小学校と連携を図り、地域の大人の協力を得て『子ども教室』を実施することとなっている。

社会環境の変化により、子供たちの自然体験や生活体験の不足、また、子供同士のかかわりや大人と子供のかかわりの不足などが指摘されており、子供たちに多様な体験等の機会を提供することが喫緊の課題となっています。本事業は、学校の空き教室等に安全・安心な子供たちの居場所を設け、地域の大人の協力を得て、放課後や週末に地域に根ざした様々な体験活動や交流活動等の機会を提供し、子供たちの豊かな人間性や社会性を養うとともに、地域全体で子供を育む環境を充実させ、地域の教育力の再生を図ることを大きなねらいとしています。

『子ども教室』を実施している学校や地域におきましては、本事業の趣旨をご理解の上、ご協力いただくとともに、この事業が、管内にさらに広まっていくよう利根教育事務所としても支援していきたいと考えています。

